

## 日米共同訓練実施の 第8普通科連隊に慰問品を贈呈

鳥取県偕行社社長

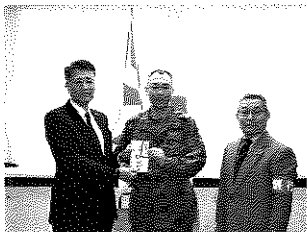
内田 義則 陸自78

日米共同して作戦を実施する場合の相互連携要領を実行動により訓練し、連携強化及び共同対処能力の向上を図ることを目的として、第8普通科連隊は、12月1日から13日の間、饗庭野演習場、国分台演習場、日本原演習場等で第3海兵師団第4海兵連隊隷下の第1―25大隊とフォレストライトと呼ばれる日米共同訓練を実施しました。本演習は、複数の演習場を使用して日米航空機による長距離離空中機動や迅速な機動展開を実施するもので、米軍のオスプレイも参加しました。

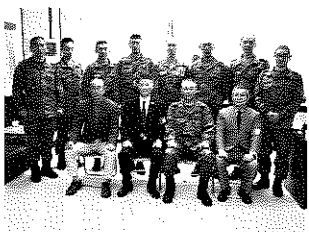
鳥取県偕行社は、本演習に先立ち、内田会長、須山理事の両名が、11月26日、第8普通科連隊が所在する米子駐屯地を訪問し、鳥取県隊友会とともに、日米共同訓練における隊員の活躍と任務完遂を祈念して、連隊長天内1等陸佐に慰問品を贈呈しました。その後、副連隊長、連隊幕僚、演習参加中隊長等も連隊長室に集合され、皆さんから慰問品に対する謝意を表していただきました。

またこの機会を利用して、公益財団法人水交会が海上自衛隊を、つばさ会

が航空自衛隊をそれぞれ支援しているように、公益財団法人偕行社が全自衛隊への支援から、今後陸上自衛隊を主とする支援へとシフトする方向で検討していること、鳥取県偕行社が県内民間建立慰霊碑調査、宮下陸軍墓地清掃をはじめとする戦没者の慰霊や自衛官殉職隊員の追悼を主体として活動するほか、県内に所在する自衛隊諸行事に積極的に参加していることを併せて紹介し、偕行社の存在を大いにアピールすることができました。



左から内田会長・天内連隊長・須山理事



連隊本部・演習参加中隊長等との集合写真